



公益財団法人

河川財団

THE RIVER FOUNDATION

河川基金や河川教育等における 他主体とのつながり

令和4年10月7日(金)

公益財団法人 河川財団



河川財団の創立とその背景

河川財団は「河川環境管理財団」として1975年9月、国・地方公共団体並びに民間各界の協力のもとに、建設大臣の許可を受けて設立されました。



2013年3月21日に内閣総理大臣から公益財団法人への移行の認定を受け、4月1日より「河川財団」と名称を変更



河川に関する調査・研究及び環境整備並びに河川への理解を深めるための活動に対する助成並びにその実施を行うことにより、国土の利用、整備又は保全及び国民の心身の健全な発達を促進し、公共の福祉を増進することを目的としています



5つの貢献

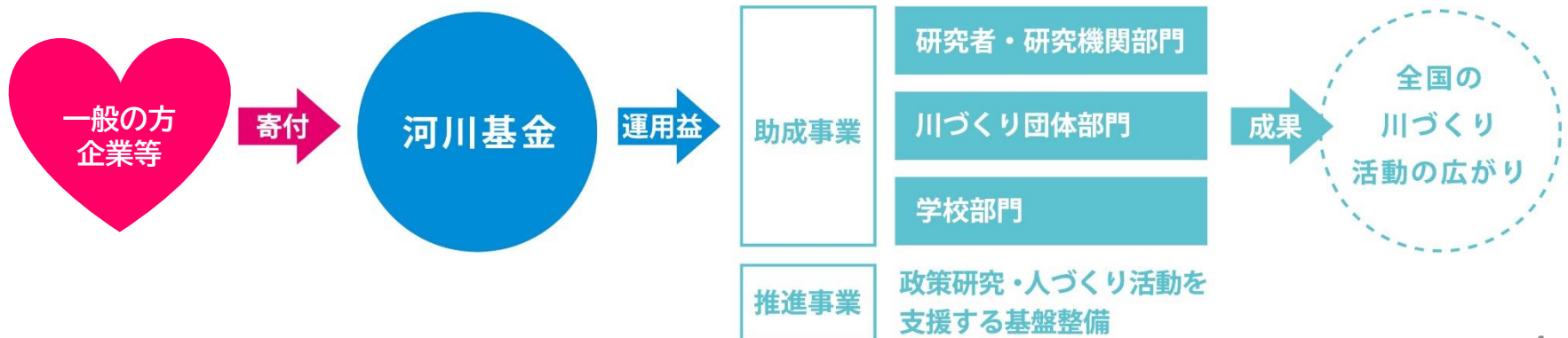
1. 調査・研究	蓄積した知見や人材を活かし現場に根ざした解決策・施策提言
2. 助 成	萌芽的な研究や若い人材の育成を支援
3. 河川・水教育	川・水がもつ優れた価値を活かした取り組みを推進
4. 河川健康公園	都市部における健康活動の場を提供
5. 受 託	河川の維持管理を支援



河川基金助成事業

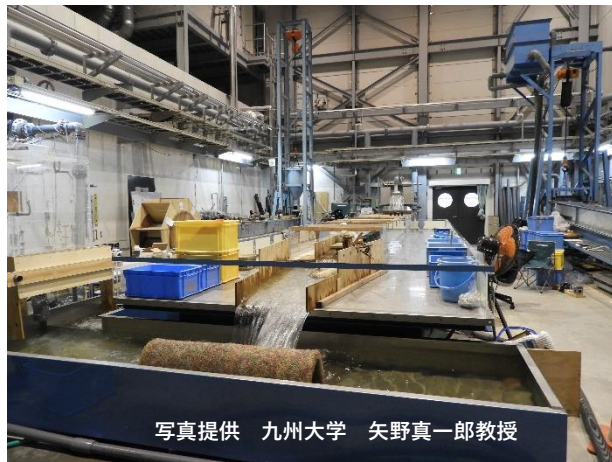
河川基金助成事業では、新しい時代を切り拓く萌芽的な研究や、川と人をつなぐ新たな活動及び学校教育や若い人材の育成を図る取り組みに重点的に支援を行うとともに、助成成果の社会への還元を積極的に進めています

- ・河川基金は、一般の方・企業等の皆様からの寄付金で設立され、基金の運用益を用いて、“川づくり”に役立つ様々な活動を助成事業として支援しています。
- ・助成の対象は、河川や水、流域に関する調査・研究を研究者や研究機関、川に親しむ活動を行う市民団体等及び川や水を題材に環境、防災等を学習する河川教育に取り組む幼稚園・保育園、小・中・高等学校等です。
- ・河川基金は、昭和63年に民間の協力を得て設立されました。これまでの約30年間に約283億円が積み立てられ、約11,630件、約124億円の助成を行ってきています。



河川基金助成事業の3つの部門

研究者・研究機関



写真提供 九州大学 矢野真一郎教授

河川や水、流域に関する調査・研究を行う、研究者や研究機関への助成

助成額
R4年度: 84件(約7,400万円)

川づくり団体



写真提供 筑後川まるごと博物館運営委員会

河川や流域への理解を深めたり、健全な姿に変えるための活動などを行う市民団体等(川づくり団体)への助成

助成額
R4年度: 75件(約7,400万円)

学校



写真提供 学校法人ロリポップ学園

川や水を題材に環境、防災、地域の自然等を学習する河川教育に取り組む、幼稚園・保育園、小・中・高等学校等への助成

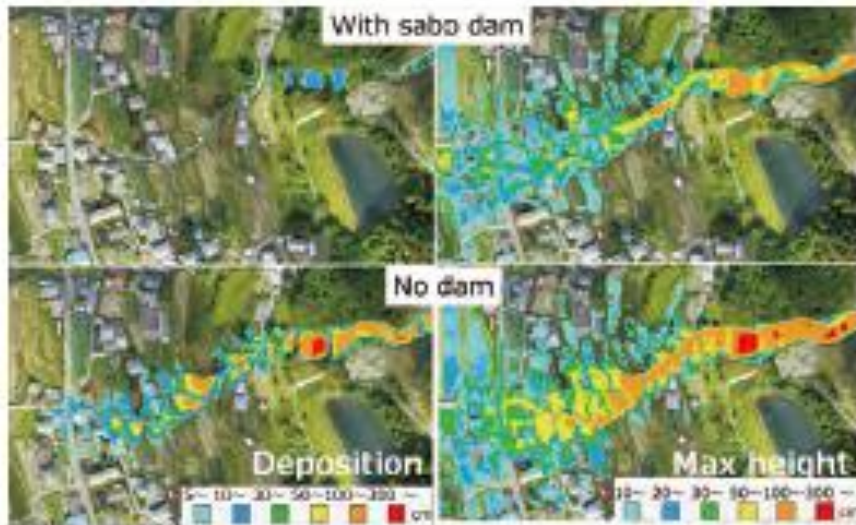
助成額
R4年度: 116件(約2,500万円)

※新規採択の件数と金額

研究者・研究機関部門について

研究者・研究機関の先進的研究を支援

防災や減災や河川・流域の視点から、治水・利水・環境に関する新たな科学的知見を得る取り組みや、新技術の開発に向けた調査・研究を行う大学等の研究者および研究機関に助成を行っています



土石流シミュレーション結果（上段は堰提有り、下段は堰提無し、左は終了時の堰提厚、右は最大水位）京都大学大学院 中谷加奈 助教 研究資料より

【対象者】

大学、高等専門学校、地方公共団体、独立行政法人、公益法人、一般法人、民間企業、河川協力団体、NPO法人、任意団体、学校等

【対象テーマ】

《工学、自然科学系》

- ① 水・物質循環、水環境
- ② 生態系・景観などの河川環境
- ③ 水害・土砂災害等の軽減、土砂管理
- ④ 水資源
- ⑤ 水に関するエネルギー
- ⑥ 河川・水分野に関する気候変動適応・緩和
- ⑦ 「川づくり」に貢献する先端技術の開発・導入
- ⑧ その他

《社会科学、人文科学系》

- ⑨ 河川・水教育（カリキュラム開発等も含む）
- ⑩ 川や水に関する地域の歴史・文化・伝統
- ⑪ 川づくり・まちづくりにおける地域との連携
- ⑫ 水に関する法制度
- ⑬ 治水や利水等の経済効果
- ⑭ その他

《文理融合型》

- ⑮ 上記「工学、自然科学系」と「社会科学、人文科学系」の双方の視点を組み合わせることにより、新たな知見を得ることを目指した調査・研究

多様な主体の
多様なテーマ
を対象

【助成額】

研究機関：200万円 一般研究者：100万円
若手研究者：60万円 シュニア研究者：30～20万円

※標準的な助成額

川づくり団体部門について

川づくり団体の地域活動を支援

川や流域への理解を深め川や流域をより健全な姿へ変える、あるいは戻すための活動を行う市民団体等へ助成を行っています



深見川リバートレッキングの様子 球磨川アドベンチャーズやつしろ

助成対象者

- ◇流域川づくり団体に対する助成（100万円～30万円）
…流域規模で行う団体の活動を支援
- ◇全国川づくり団体に対する助成（500万円～100万円）
…全国規模で行う団体の活動を支援
- ◇新設川づくり団体に対する助成（50万円、3～5年間）
…設立されて5年以内の団体の活動を軌道に乗せるために支援

川づくり団体とは

川づくりの活動を実施あるいは支援する市民団体等

- ◇公益法人等
- ◇特定非営利活動法人
- ◇河川協力団体
- ◇任意団体
- ◇その他（認可地縁団体、民間企業等）

対象テーマ

- ① 河川や流域への理解を深める活動
- ② 河川教育を支援する活動
- ③ 人材育成、指導者育成に焦点を当てた活動
- ④ 川づくり団体が行う社会教育的活動
- ⑤ 河川環境の保全活動
- ⑥ 防災・減災に関する活動
- ⑦ 川を活かした地域づくりに関する活動
- ⑧ 流域間・流域内交流でのネットワークを構築する活動

学校部門について

学校における河川教育を支援

学校教育の現場において、河川・流域を通じて防災や環境等を学習する河川教育に取り組む小・中・高等学校等に助成を行っています

※河川基金では、川や水を題材とした学習あるいは川や水辺を体験の場とする学習活動のことを「河川教育」と呼んでいます。



5年生 流れる水のはたらきの授業風景
大崎市立古川第一小学校

【助成対象者】	【助成区分】	【内 容】		【期間】	【助成金額】
①幼稚園、保育所、認定こども園等	幼稚園、保育所、認定こども園等	川や水辺を体験の場とする学習活動あるいは園内等での水遊びによる水との触れあいを通じた学習活動に対し助成		1年	10万円 (定額)
②小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等	河川教育とりくみ支援	河川教育に取り組むための準備活動(先進校の視察、研修会・研究交流会への参加、体験活動の試行など)に対し助成		1年	10万円 (定額)
	単学年	単学年で行う、教科学習、総合的な学習等における河川教育の実践に対し助成		1年	20万円 (定額)
	複数学年	複数学年にまたがって行う、教科学習、総合的な学習等における河川教育の実践に対し助成	学年数2～3	1年	40万円 (定額)
			学年数4～6	1年	50万円 (定額)

取り組みの事例(学校部門)

認め合う環境で子ども達の自信が生まれる

ろりぽっぷ学園ろりぽっぷ幼稚園・保育園(宮城県)

幼稚園・保育園の年長児を中心に、川の活動を通して自然の雄大さ、生命の神秘さを感じられるように、秋保神ヶ根地区の名取川を中心に活動しています。川を流れる体験から自然の法則を体感し、大岩からの飛び込みでは、怖い・難しいという気持ちに向き合うことで、困難に立ち向かう心を育んできました。サケの稚魚を育てて放流する活動では、「自分たちがサケの親になる」という責任感を持って取り組むことで、命の大切さに気付くことができるようにしています。



川を全身で感じます



大岩からの飛び込み

ドローンを活用した河川の自然のリアルな理解のための教材開発と実践

三重大学教育学部附属小学校

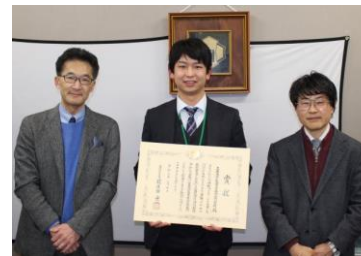
「自分の命は自分で守る」子どもを育てたいと考え、授業のテーマに「統合治水と防災」を掲げました。ただ、自然や地形を子どもたち自身の目で観察することが重要な一方、河川の中州など近づくのが難しい場所や全体像が見られない場所の観察が困難であるという課題がありました。その解決のためにドローンで撮影した映像を教材として使う試みが行われました。



ドローンで撮影した雲出川
周囲の地形も見やすく



ドローンで撮影した映像を
VRゴーグルで授業も



成果が評価され
文部科学大臣賞を受賞
(令和2年度)

交流の場の提供 研究成果発表会

▶発表者（申込不要）

河川基金助成事業（研究者・研究機関部門）において
令和3年度に助成研究を完了した研究者

▶一般参加（要申込）

※定員になり次第終了
2022/6/1～7/31 河川基金HPにて申込み受付
<https://www.kasen.or.jp/kikin/tabid288.html>

会場で開催

定員：150名

2022.

8/30(火) 9:30～18:00

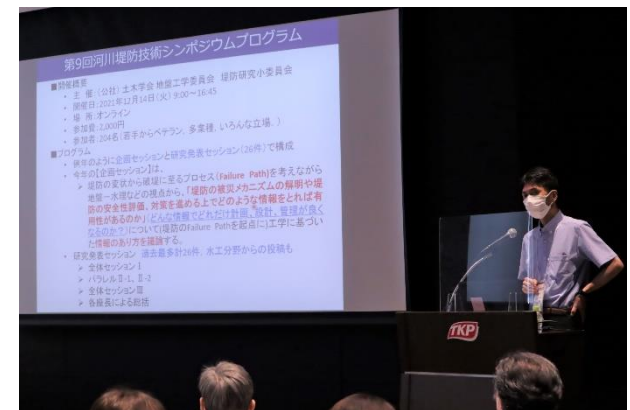
会場：TKPガーデンシティPREMIUM神保町

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町3-22 テラスクエア 3階

令和4年度
河川基金
研究成果発表会
令和3年度河川基金助成事業研究者・研究機関部門
成果発表会

河川基金の助成事業として実施した研究について、その成果を積極的に社会に発信し、広く普及還元するため、毎年「河川基金研究成果発表会」を開催しています。助成者全員による成果発表を実施しています。



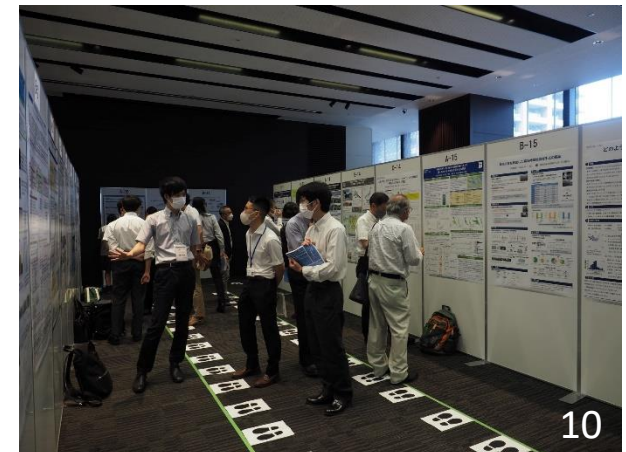
発表の様子



国土交通大臣賞の授与



表彰された研究者の皆さん



ポスターセッションの様子

交流の場の提供 川と人をつなぐ活動成果発表会

令和3年度



川と人をつなぐ 活動成果発表会

令和2年度 河川基金助成事業 川づくり団体部門 成果発表会

2022 2/19(土) 13:00～

TKPガーデンシティ御茶ノ水 3F
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台三丁目11-1
三井住友海上駿河台新館 3F

参加費無料
WEB受付

受賞者による発表・パネルディスカッション

会場参加・ライブ配信
会場参加は、関係者に限定しております。
関係者以外の方は、ライブ配信での視聴をお願いいたします。

河川や流域への理解を深めることにより、川や流域をより健全な姿に変える活動を行う市民団体等(川づくり団体)への助成の成果を発表・紹介するための事例発表会を開催しています。

この事例発表会が、市民団体や関係機関等の皆さまにとって貴重な情報共有や人的交流の場となり、一層の活動促進に資することを目指しています。

プログラム

主催者挨拶 (公財)河川財団 理事長
来賓あいさつ 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長
内藤 正彦 氏

口頭発表(5団体)
情報提供 多摩市連光寺小学校 羽澄 ゆり子 氏
パネルディスカッション
「求められる市民団体の役割とは
～地域力で子どもたちを育む～」
コーディネーター:東京大学 准教授 知花武佳 氏
コメンテーター:国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課河川環境保全企画調整官
信田 智 氏

パネラー
表彰式 優秀成果表彰を受賞した5団体
国土交通大臣賞
令和2年度助成事業「川づくり団体部門」優秀成果表彰
閉会の挨拶 (公財)河川財団 参事



パネルディスカッションの様子

交流の場の提供 河川教育研究交流会



会場参加・ライブ配信

会場のお席には限りがございます。
定員になり次第、ライブ配信での
視聴をお願いいたします。

受賞者による発表
ゲスト講演
パネルディスカッション

川や水を素材とした教育的価値の創造

学校教育の中で、川や水辺を活用した様々な体験活動等を行うことで、子ども達の感性や理性を様々な面から育むことができます。本河川教育研究交流会では、学校における河川教育の先進的な事例の発表等を行い、関係者間の情報交流等をはかります。

令和3年度 河川教育研究交流会

令和2年度河川基金助成事業 学校部門 成果発表会

開催日：令和4年 2/6(日) 13:00

場所：TKPガーデンシティ御茶ノ水 3F

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台三丁目11-1
三井住友海上駿河台新館 3F

お申込：令和3年 12月下旬～

※詳細は裏面をご覧ください

参加費無料
WEB受付

川や水を素材とした教育的価値の創造

学校教育の中で、川や水辺を活用した様々な体験活動等を行うことで、子ども達の感性や理性を様々な面から育むことができます。

河川教育研究交流会では、学校における河川教育の先進的な事例の発表等を行い、関係者間の情報交流等をはかっています。

プログラム

主催者挨拶 (公財)河川財団 理事長
来賓あいさつ 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長 内藤 正彦 氏
講演 「第3次学校安全の推進に関する計画(答申案)概要について」
文部科学省初等中等教育局主任視学官 長尾篤志 氏

口頭発表(7団体)

パネルディスカッション

「河川教育における探究的な学びとは」
～育成された資質能力と見られた変容～

コーディネーター：日本河川教育学会 会長 金沢 緑 氏

パネラー 優秀成果表彰を受賞した5団体
講演 日本体育大学 教授 角屋 重樹 氏
表彰式 文部科学大臣賞
国土交通大臣賞

令和2年度助成事業「学校部門」優秀成果表彰
閉会の挨拶 (公財)河川財団 河川総合研究所長



パネルディスカッションの様子

河川基金助成事業の流れ(2023年度助成)

募集

2023年度助成の募集

募集期間：2022年10月1日9:00～11月15日18:00



審査

結果

2023年3月末 採択の可否を郵送（採否通知書）



活動期間

2023年4月～2024年3月末まで（1年助成の場合）



助成金

前金払い可能



報告

2024年4月末までに報告書を提出



発表会

2024年度 発表会、優秀成果表彰

研究者・研究機関(夏頃)、川づくり団体、学校(翌年2月頃)

河川基金にかかわる民間企業との連携(事例)

「(株)あらた」様が、河川財団と連携したキャンペーンを実施！

化粧品、日用品、家庭用品などの卸売を手がける生活用品商社の「(株)あらた」様(東証一部上場)は、この夏、河川財団と連携して、節水や排水配慮などの効果のある商品の販売促進キャンペーンを実施しました。
(2016年6月1日～9月10日まで)

このキャンペーンは、環境省が官民で推進する「Water Style」の一環として実施されています。全国約1,000箇所のドラッグストア、ホームセンター、スーパーマーケットなどで、キャンペーン対象商品を含む500円以上の金額の買い物をしたお客様が、備え付けの応募ハガキにレシートを添付して応募すると、応募レシート総額の1%を当財団が運営する「河川基金」に寄附される仕組みとなっています。

また抽選で1,000名様に、「(株)あらた」様から500円分のクオカードがプレゼントされます。

(株)あらた様、全国のキャンペーン協力店様、そしてご応募をして頂いたお客様に心から感謝申し上げます。頂いた寄附金については河川基金に繰り入れ、よりよい「川づくり」に寄与する活動に有効に活用させていただきます。

今回は、河川財団が民間企業のCSR/CSV(企業の社会的責任/共通価値の創造)活動と連携して、河川基金の充実に取り組む初めてのケースです。今後も引き続き、民間企業を含む様々な方々との連携を図ってまいります。

河川基金だより「RIVER FUND」35号
(2016年10月)より



Water Style キャンペーン

店頭で商品を買って、みんなの水と未来を守ろう！

2016年 8/31(水) レシート有効期間 2016年 9/10(土) 応募締切日

キャンペーン概要

対象商品を含む **500円以上(税抜)** のお買い物レシート(合算可)を、専用の応募はがきに貼付して送付してください。

皆様よりご応募いただきましたレシート総額の1%を、公益財団法人河川財団の運営する河川基金に寄附させていただきます。

さらに

ご応募いただきました方の中から抽選で **1,000名** 様に、**500円分のオリジナルQUOカード**をプレゼント！

WaterStyleとは

環境省が中心となり、水を「～守り育て、惜り使い、大切に愛す～」日本の豊れた水循環を官民が連携して支えていくためのプロジェクトです。
[民間企業や地方公共団体がそれぞれの事業活動(商品・サービス等)や環境活動を通じて、新しい水との向き合い方「WaterStyle」を国民の皆様へ啓発していくこととしています。]

河川基金とは

公益財団法人「河川財団」が運営する、全国の「よりよい川づくり」に役立つ様々な活動に支援を行うための基金です。

店舗でのキャンペーンポスター

河川基金を応援していただける皆様へ

皆様からのご寄付につきましては、河川基金として管理し、その運用益を河川の治水・利水・環境に関する調査、川づくり団体の活動や学校での河川教育を支援する助成事業のために有効に使わせていただきます。

○寄付の方法

- クレジットカード決済
- 銀行等振込からの手続き

○紺綬褒章 公益団体として内閣府より認定

河川財団は、内閣府(賞勲局)より「紺綬褒章」の公益団体認定(褒章条例二関スル内規 第2条)を受けました(平成29年6月28日付)。褒章の一つである「紺綬褒章」は、公益のため私財を寄付した方々(個人では500万円以上、法人では1,000万円以上)を対象としています。平成29年6月28日以降、河川財団へのご寄付(河川基金への寄付または一般寄付)をいただいた方で上記条件を満たす場合には「紺綬褒章」の授与申請を致します。

○寄付金の税法上の優遇措置について

当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けております(認定日は平成25年3月21日、法人登記日は同年4月1日)ので、当財団への寄付金には上記の河川基金への寄付金及び一般寄付金のいずれについても特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)・法人税(法人)の所得控除等が受けられます。

河川・水教育事業

河川財団では、川、水のもつ学びの場や対象、素材としての価値を活かした教育(「**河川・水教育**」と呼んでいます。)を推進し、学校教育への貢献、河川・水と人・自然・社会とのかかわりを深く理解した人材育成の支援及び安全な水辺体験活動の普及・啓発を行っています

河川、水がもつ教育的な特徴

1 感性・気づき

川や水辺における体験活動(体験型の学習活動)は、子どもたちの感性を磨き、様々な気づきを促す



2 多面的な学び

川や水は人々の生活と深くかかわり、防災、環境、歴史、文化といった様々な学習要素が内在し、多面的に学ぶことができる



3 能力・態度の育成

様々なテーマから主体的に問題を見出し、問題解決の能力や態度を育成することができる



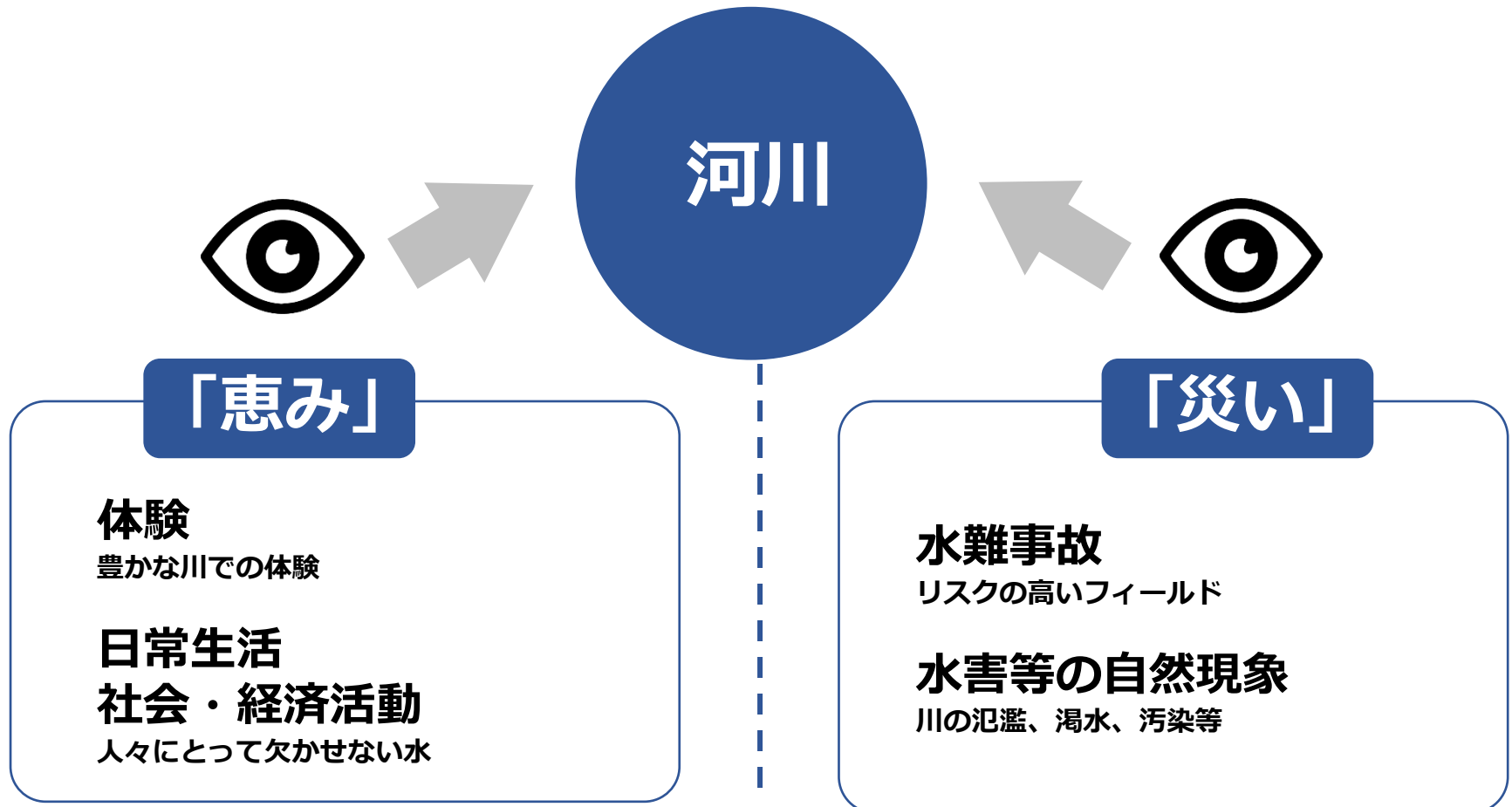
4 地域への愛着

身近な川や水を学習素材とすることは、子どもたちの興味を引き、地域に愛着を持つことにつながる



川は「恵み」と「災い」の両側面を持つ

「災い」だけでなく、川や水の良さ等の「恵み」とをあわせて考えることにより「プラス」と「マイナス」の両面で物事を捉えることができます
1つの対象を多元的に捉える取組は、人間形成上において教育的価値が高いと考えています



河川・水教育事業の活動の柱

1.

水辺における安全な体験活動に向けた取り組み

1) 「子どもの水辺」施策支援

2) 水難事故に関する調査研究

研究成果の普及展開+ライフジャケットの普及促進

3) 川の指導者育成



2.

河川、水や流域を題材とした学習活動への支援

1) 学校教育を対象とした各種教材の作成・提供

2) 学校教育における学習活動への支援

3) 体験型の国際水教育プログラム「プロジェクトWET」の展開



水難事故に関する調査研究

川での活動は、安全確保が最優先事項であり、
安全な水辺の体験活動を支援する一環として水難事故に関する調査研究を実施

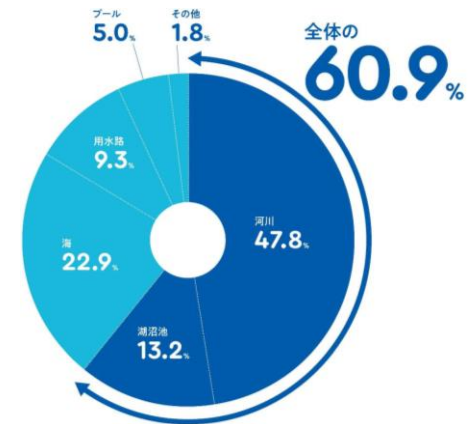
- ・ 河川等における水死者は概ね横ばいで推移
- ・ 子どもの水難死亡事故の約6割は「川」と「湖」

河川財団は、河川に特化した水難事故の調査研究・
分析・公表を行っている国内唯一の機関

(2003年～2020年)



場所別水死者総数 (H15-R02警察庁資料より河川財団作成)



場所別水死者総数 (子ども)
(H15-R02警察庁資料より河川財団作成)

- ・ 河川財団では、報道された河川に関わる水難事故に関するデータを独自に収集（警察庁の公表資料では記載されていない事故の状況等の詳細情報を分析）
- ・ その結果を「全国の水難事故マップ」として当財団ウェブサイトで公表するとともに、収集したデータに基づき水難事故発生の原因などについて分析し、水難事故防止対策ならびに安全な河川利用に関する知見を蓄積・公表。

【全国の水難事故マップ】



No More水難事故
河川における水難事故のデータ分析

川での安全な体験活動に向けた普及・啓発

川で活動を行う際に気を付けること等について、冊子や映像をはじめとした様々なツールで周知
(河川管理者やNPO法人川に学ぶ体験活動協議会加盟団体等の様々な主体と連携して実施)



水辺の安全ハンドブック
水辺で活動する際のポイントを紹介

ライフジャケット着用推進



川での活動に適した
ライフジャケットの例



RAC川育ライフジャケッ
ト認定マーク

「うんこドリル 川の安全」
小学生に大人気の学習参考書「うんこドリル」が
川遊びのポイントを紹介



冊子



アプリ



体験型の国際水教育プログラム 「プロジェクトWET」の展開

「プロジェクトWET」とは Water Education Today

- ・ 全世界75以上の国と地域で普及されている、米国発祥の30年以上の歴史を持つ体験型の国際水教育プログラム。
- ・ 日本では唯一、河川財団がプロジェクトWETジャパンとして2003年度から活動。
- ・ 2020年度から実施されている新学習指導要領の特徴となる「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの実現）」の要素を持ち、模擬体験や協同学習をベースとしたプログラム。

水の衛生、水の利用、水の特性、水循環、地下水、河川、流域、水防災、文化等、水に関する様々なテーマを扱った100を超える体験型の「アクティビティ」は、学校の授業、地域のイベント、出前講座、野外活動等、様々な場面で活用されている。

アクティビティ事例1 「驚異の旅」

子どもたち自身が水の分子となってサイコロを転がし、地球上の水循環を体験



project WET
WATER EDUCATION TODAY



オンラインでも学べる
E-Learningツール
「水から学ぼう！」



「プロジェクトWET」のアクティビティ

日本の水事情に合うようにローカライズされたアクティビティは、
水に関する様々なテーマを扱っている。



project WET
WATER EDUCATION TODAY



アクティビティ事例2
青い惑星

地球表面上の海と陸の割合を地球儀でキャッチボールしながら学ぶ。

水と地球構造



アクティビティ事例3
大海の一滴

地球上のすべての水の内、人間が使用できる水の割合を考える。

水資源



アクティビティ事例4
水リンピック

水の物理的特性「凝集」・「凝着」を競技形式で学ぶ。

水と科学



アクティビティ事例5
ハンプティ・ダンプティ

破壊された水環境や生態系の復元の難しさやその重要性を考える。

環境



アクティビティ事例6
殺人鬼は誰だ？

ミステリーの謎解き形式で水を媒介とする病気について考える。

水と衛生



アクティビティ事例7
レインスティック

雨ごいに使われたという楽器づくりを行い、生活と水との関係を考える。

水と文化

「プロジェクトWET」のしくみ

仕組み

プロジェクトWETのファシリテーター（上級・普及指導者）が開催する講習会を受講すると、エドューケーター（一般指導者）と認定され、プロジェクトWETを活用することができる。



指導者 区分



エドューケーター（一般指導者）

子どもたちにプロジェクトWETを利用した水教育を実践



エドューケーターとして一定の経験を積み STEP UP!



ファシリテーター（上級・普及指導者）

一般指導者の資格をもち、さらに他の一般指導者を養成

エドューケーター

指導者数：

約10,000名

ファシリテーター

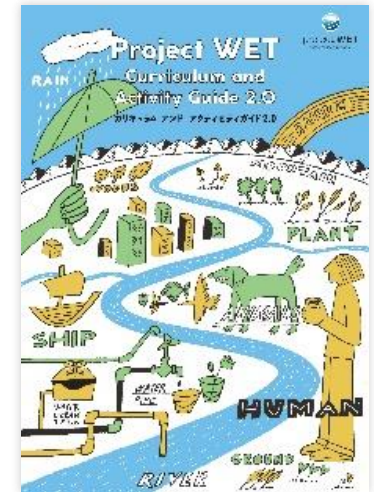
指導者数：

約350名

「学割・教職員割」、
「導入校割」など各種
割引制度もあります。

国の人材認定等事業に登録されています

日本において、プロジェクトWETは「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律（改正後：環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成23年法律第67号））」第11条第1項に規定する人材認定等事業に登録されております（主務大臣：環境大臣、文部科学大臣、国土交通大臣）。



プロジェクトWETガイドブック

導入校

プロジェクトWETを授業に導入している大学・専門学校（下記例）

北海道教育大学（北海道）

弘前大学（青森県）

武蔵野大学（東京都）

玉川大学（東京都）

関西福祉大学（兵庫県）

札幌国際大学（北海道）

茨城大学（茨城県）

和光大学（東京都）

学習院女子大学（東京都）

愛媛大学（愛媛県）

酪農学園大学（北海道）

宇都宮大学（栃木県）

東京農工大学（東京都）

愛知教育大学（愛知県）

久留米大学（福岡県）



「プロジェクトWET」における民間企業との連携（事例）

「水」にかかわる企業、法人、自治体のCSR活動や職員研修、イベント等の一環として「プロジェクトWET」が活用されています

日本水道新聞社

「子ども下水道新聞 2017号」では、下水道の働きについて紹介するページの作成にプロジェクトWETを活用して小学校の出前講座を実施



小学校の出前講座（主催：日本水道新聞社）でプロジェクトWETのアクティビティ（驚異の旅）を行う 17' ミス日本「水の天使」の宮崎あずささん（2017.5.12）

サントリー「水育（みずいく）」出張授業

サントリーホールディングス株式会社では、2006年からサントリー水育「出張授業」を展開し、小学校で担任の教員と水育講師が連携して授業を行っています。2020年度からは、小学校で全面实施されている新学習指導要領の内容を踏まえた体験学習が、「出張授業」で使用されています。（プロジェクトWETジャパン事務局である河川財団と、サントリーとが共同開発）



【写真提供】サントリーホールディングス株式会社